

岩手県立宮古北高等学校 令和元年度第1回学校評議委員会

日時：令和元年6月13日（木）16：00～17：00

会場：岩手県立宮古北高等学校 大会議室

学校評議員出席者： 照井正孝 宮古市立田老第一中学校 校長
田村清子 宮古北高等学校 教育振興会長
橋上和司 三陸鉄道株式会社 旅客営業部長
野崎仁也 宮古市立田老公民館長
堀子由政 田老町漁業協同組合 J F 田老販売定置課 係長

1 目的

本年度の学校概況及び運営方針と、運営方針に基づいた各分掌の教育指導計画等を明示しながら、地域に開かれた特色ある学校づくりをより一層推進する学校活性化のための方策について意見を集め、本校教育の充実発展に寄与することを目的とする。

2 学校概況説明

(1) 令和元年度学校経営計画について【校長】

昨年度から全校集会「宮北の森」を立ち上げ、意見交流、自己発信の力を育む場とし、生徒が主体的にワークショップ等の活動を行っている。

総合的な探究の時間に「田老学」を計画。フィールドワークを通して地元を再認識し、町作りについて学んでいる。防災教育として震災列車活用スクールの利用をし、校外に出て学ぶ機会を充実させていく。

(2) 学習指導課教務関係について【教務】

学習・生活に関するアンケートを実施し、生徒への指導に生かしていく。

日々課題の提出状況は良好であり、今後は課題の内容と評価を充実させていく。

(3) 学習指導課進路指導関係について【進路指導】

総合的な探究では、地元の田老地区を知り、課題を見つけ、産業分野に結びつけさせたい。地域の活性化につながる人材の育成を目指している。

(4) 生徒指導課生徒指導関係について【生徒指導】

月例集会「宮北の森」が充実してきている。今後もさらに生徒主体型へ発展させていく。

(5) 生徒指導課教育相談関係について【教育相談室】

教育相談体制の充実を図る。

(6) 生徒指導課保健厚生関係について【保健厚生】

健康診断の受診勧告書の回収率を上げるため工夫している。

(7) 校務渉外課 PTA・防災教育関係について【総務】

(8) その他

① 外の資源を活用し、生徒の変化と成長を促したい。防災学習等を通して地域の復興人材として育てていく。【副校長】

② 中学校で不登校経験者の生徒が本校に入学しているが、本校は小規模であることをメリットと捉え、小規模校としてのあらゆる取り組みを通して、生徒の自己肯定感を高めることにつなげていきたい。

【校長】

3 質疑応答

(1) 学校評議員

教員が生徒とゴールを共有し、きめ細やかに指導されていることに感心した。

「主体的・対話的で深い学び」を目指した具体的な取り組みを教えて欲しい。

①パフォーマンステストの実施。生徒が伝えたいことを、英語を用いて伝える活動を行っている。

②新聞の人生相談への回答について書かせる活動をグループで行っている。

(2) 学校評議員

最近の中学生は自信が無い生徒が多い。北高での状況はどうか。

①褒められることを素直に受け入れず、自分の悪いところに目が行く。相手の良いところは見つけられるが、自分の良いところを見つけれない生徒が多い。良いところをこまめに褒めることで少しずつ変化してきている。

学校評議員

互いに良いところを見つけ、それを見えるようにしていくことが自己肯定感を高めることにつながるのではないと思う。今後、防災、復興教育を含めて情報共有をしていきたい。

4 学校評議員助言

(1) 学校評議員

北高ではきめ細かく対応していることが分かった。様々な事情を抱えた生徒を温かく見守って社会に送り出している。

(2) 学校評議員

娘がバスで通っている。何かあったら駅の裏の神社に逃げるように言っているが、場合によっては学校に避難するようにと教えなければならない。

(3) 学校評議員

震災学習列車について準備を進めている。現在の高校生で震災のことを知らない子供も多い。地元の生徒が震災のことを知っていることは大切。生徒が考える機会を作れるように準備している。

登校時、北高生は大きな声ではないが、挨拶を返してくれる。出来るだけ声を掛けていきたい。

(4) 学校評議員

色々な子どもがいる中で、苦勞されていると思う。宮古北高校が存在しているということは地域にとって大きな意味がある。北高は貴重な存在である。

(5) 学校評議員

学校に来ると生徒が元気に挨拶をしてくれる。今後も礼儀、マナーを指導していただきたい。